

若手職員座談会

令和5年度実施

日高市に転職して入庁した
職員4名に話を聞きました



参加職員

橋本 主任

保健相談センター

健幸のまち推進担当

平成31年度採用

後藤 主事

総務課

人事厚生担当

令和3年度採用

松本 主任

市街地整備課

新市街地整備担当

令和4年度採用

鈴木 主事補

会計課

出納・審査担当

令和5年度採用

☞参加者個人の紹介は職員紹介をチェック！

入庁してから驚いたことは？

入庁前後でギャップはあった？

後藤：入庁して最初の部署が水道課だったということもあって、職員の仕事にはこういったものもあるんだなって思ったよ。水ひとつとっても水圧は一定か、塩素消毒は市の末端まで行き届いているか、工事後の通水時には水質や水圧、濁りをチェックしてから給水するとか…。職員になって初めて知ることが多くて、とてもびっくりしたね。それから「市役所」って聞くと窓口業務のイメージが強かったけど、むしろ作業着を着るような現場色が強い部署があることにもギャップを感じたかな。

鈴木：確かに窓口業務のイメージが強いですね。実際、庁舎内の部署でも、窓口業務が多いところと少ないところ、差がありますよね。

松本：僕の所属はむしろ現場色が強いので、そういった窓口業務にも少し興味がありますね。

橋本：私は最初に配属されたのが広報の担当だったんだけど、ホームページが毎日たくさん更新されていることにとっても驚いたかな。市民でもホームページを見る機会ってそんなになかったから。でも、いざ担当に

なったら、毎日どんどん更新して市をPRしているんですよ。そのギャップが担当としては苦しかったかな。だからこそ、もっと見たくなるようなホームページを作らなきゃいけないし、もっと工夫できるんじゃないかなって思っていましたね。

■部署異動は平気？

後藤：初めての異動が水道課から総務課だったのはびっくりしました。ただ前職でも異動は何度かあって、社内異動や転勤も経験していたから、さほど異動に対して苦はなかったかな。

鈴木：私も前職で異動を1回経験しました。その異動で業務内容が大きく変わりましたが、そこにやりがいを感じた部分もあったので。今回、市役所に転職しようと決めた時も、異動によってやるのがかなり変わるということは話に聞いていたので、覚悟はしています（笑）

橋本：私は前職での異動経験はないけど、そこまで苦ではなかったかな。ただ異動先が保健相談センターだと聞いた時は、前職や前部署の仕事とはかけ離れているし、ほとんど知識のない保健や健康に関する部署だったから、驚きはしました。よく「異動

は転職だよ」と聞いていたから身構えてはいたけど。実際、新たに覚えなきゃいけないことも多いけど、過去の経験が活かせる部分もあったかな。あの時はこうだし、次はこうしてみよう！とか、様々なことにチャレンジしやすい環境になっているかなと思います。



■職業病だなんて思うことは？

松本：休日でも、自分が担当している工事の現場近くを通ると、つい今どんな感じかなって進捗を確認しちゃいますね。

後藤：僕も水道課の時は、自分の担当現場を見に行きました。休みでも気になりますよね。あと毎朝、水の味やにおいをチェックするようになったかな。節水も前より気にするようになった気がする。やっぱり水のありがたみが違うよね。

橋本：私は仕事以外でもよくホームページを見ていたかも。休みの日でもちゃんとページが更新されているかなって気になっちゃって。

採用試験前に準備したことや、やっておいた方がいいことは？

後藤：面接に対してとても苦手意識があったから、時間をかけて日高市のことについて調べたり、市の政策や希望する所属等を確認したりして臨んだ気がする。



松本：僕も同じです。やっぱり政策については調べますね。総合計画や基本計画を見れば、その市が何をやっているのか、何を課題としているのかがわかるから、ぜひ確認した方がいいと思います。

鈴木：そうですね。他には『広報ひだか』がホームページ上で見られるから、ぜひ目を通しておいた方がいいと思います。私は面接前に1年分の広報を読んで、日高市はこういうことをやっているんだとか、イベントはこういうのがあるんだっていうのを知りましたね。

採用試験に向けてどのように勉強した？いつから勉強した？

橋本：筆記試験ってSPI3だった？

後藤：僕が受けた年はSPI3でしたね。仕事をしながらの試験勉強だったから、早めに対策を始めていました。始めた当初は日高市の募集案内が出る前だったので、多くの自治体で出題されている教養試験の対策をしていたかな。7月の募集案内を見てからは、試験対策をSPI3に切り替えて、約1か月は勉強したよ。

鈴木：私の場合、働きながら教養試験対策をするのは、ちょっと難しいだろうと思っていたのですが、日高市ではSPI3を導入していたので、転職者でも受けやすくなって思いました。実際に本腰を入れて勉強した期間としては1か月半ぐらいです。

後藤：そうだね。転職者からすると、SPI3を導入しているのはすごくありがたいよね。日高市は数年前にSPI3を導入したみたいで、転職者や民間企業と平行して就職活動をする人にとっても、受験しやすい自治体になったと思うな。

松本：僕は技術職だから土木の専門試験の勉強をしましたね。ただ、大学生の頃に学んで以来徐々に勉強する内容だったので、10年以上前の知識を思い出すのはなかなか大変だったよ。



公務員を転職先に選んだ理由やきっかけは？

橋本：私は、前職でやっていたことが他の場所で通用するのか気になったことと、そもそも新しいことに挑戦したい時期だったのが理由かな。あとは、前職が教員だったんだけど、行政の立場から見た教育について気になったことも、きっかけだったかもしれない。

鈴木：前職との違いに興味を持った点は同じかもしれないです。私が前職を選んだ理由は、地元のために働きたいという思いがあったからだったからなんです。ただ実際に働いてみると、取引先に対しての関わりがメインで、もっと多くの人に関わる

仕事がしたいという気持ちになりました。他にも、前職で配属されていた部署で、産休・育休などの制度を担当していたんですけど、会社の制度上の中でしかフォローができなかったのが、少し心残りです。行政の立場なら、もっと違った形で子育てをしている人の助けになれるのではと思って、転職を決めました。



後藤：僕はもともと行政の仕事に興味があったんだけど、その中でも地方で働きたいと思ったのは、市民の生活に関わる仕事を市民の近くでやりたいって思ったからかな。子育てや教育みたいに、市民の生活により近い仕事もそうだし、道路やまちづくりのように、暮らしの土台に関わる仕事に対しても魅力を感じたね。あと、異動が定期的にあることも決め手だったかも。市役所の業務は多岐にわたっていて、色々な部署にいけるから、長年働いても新鮮な気持ちでいられると思ったんだよね。

鈴木：なるほど。確かにそういった面で異動はプラスかもしれないですね。自分の成長に繋がると思います。

松本：僕も専門分野の知識を生かして、暮らしの土台に関わる仕事がしたかったので選びましたね。だからこそ、自分の努力が形になったときや、市民の方が施設を利用している姿を見る時は、すごくやりがいを感じますね。

最後に…

転職を考えている方の参考になれば幸いです。皆さんと働ける日を楽しみにしています！